

PRAEVIDENTIA DAILY (12月3日)

昨日までの世界：ドル全面高、本邦格下げからのリハビリ完了

昨日は、主に欧州時間以降、米ドルが対主要通貨でどの通貨に対しても概ね前日比+7%前後の上昇となる全面高となった。米建設支出（前月比+1.1%）の予想比上振れ以外は特段ドル買い材料もなく、日欧で強い売り材料があった訳ではないが、米株価や中長期債利回りの反発と整合的な動きとなった。原油価格の反落も、インフレ期待低下を通じた中長期債利回りの下押し要因とはならず、むしろ対価としてのドル押上げに繋がった面があるかもしれない。

こうした中、ドル/円はじり高となり明確に 119 円台乗せ、本日早朝にかけて一時 119.27 円へ上昇し前日の本邦国債格下げを受けたポジション調整的な下落を帳消しにした。Fed 高官発言が幾つかあったが米金融政策スタンス面で目新しい内容は特になかったが、むしろ Fischer 副議長が「日銀の取り組み強化は適切な行動」として円安ドル高をもたらした追加緩和にお墨付きを与えたことは、ドル/円を買い易くする材料といえる。

ユーロ/ドルは今回の ECB 政策理事会での追加緩和期待を高める材料はなかった模様だが、年初来安値圏である 1.23 ドル台へ下落した。NZ ドルは世界乳製品取引オークション（GDT）で価格指数が前回比 1.1% 下落したこと、ニュージーランドの主要輸出品の価格が下げ止まっていなかったことが明らかとなり、下落が加速した。ポンド関連では、英建設業 PMI が 59.4 と前月および市場予想を下回る結果となったが、結果への反応は大きくなく、むしろ全般的なドル高につれてポンド/ドルは下落した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.7	+0.04	+0.04	+0.00	+0.08	+0.08	-0.00	+0.6	+0.4	-2.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.7	-0.05	-0.01	+0.04	-0.06	+0.02	+0.08	+0.2	+0.6	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.6	-0.01	+0.03	+0.04	-0.01	+0.07	+0.08	+1.3	+0.6	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.6	+0.03	+0.07	+0.04	+0.03	+0.11	+0.08	+0.6	+3.1	-2.1
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.8	-0.04	+0.00	+0.04	-0.06	+0.02	+0.08	+0.6	+3.1	-2.1
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.7	+0.02	+0.04	+0.02	+0.02	+0.08	+0.06	+0.6	-2.9	-2.1

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：ISM 雇用より ADP

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑、USD/CAD ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 3Q GDP・前期比	9:30	+0.5%	+0.7%	
中国 11 月 非製造業 PMI	10:00	53.8		2 か月連続悪化中
中国 11 月 HSBC サービス業 PMI	10:45	52.9		
スイス 3Q GDP 前期比	15:45	-0.0%	+0.3%	
トルコ 11 月 CPI 前年比	17:00	+9.0%		
ユーロ圏 11 月 サービス業 PMI 改定値	18:00	52.3	51.3	速報は 51.3
ユーロ圏 11 月 コンポジット PMI 改定値	18:00	52.1	51.4	速報は 51.4
Plosser フィラデルフィア連銀総裁発言	21:30			タカ派、来年は投票権なし
米 11 月 ADP 民間雇用統計	22:15	+23.0 万人	+22.4 万人	
Brainard・FRB 理事発言	23:00			中立、常に投票権あり
米 11 月 ISM 非製造業景況指数	0:00	57.1	57.5	前月の雇用指数は 59.6
カナダ中銀金融政策決定	0:00	1.00%	1.00%	
米地区連銀報告	4:00			
Fisher ダラス連銀総裁発言	4:30			タカ派、来年は投票権なし
ブラジル中銀金融政策決定	6:00	11.25%	11.50%	

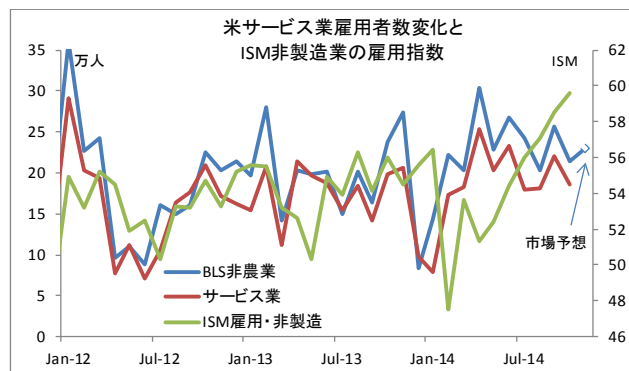
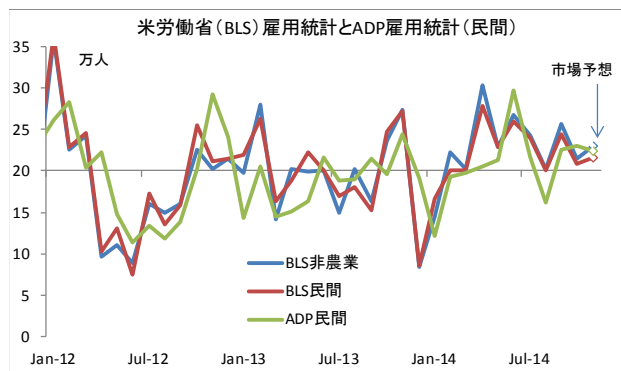
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は金曜発表の米雇用統計を占う上で重要な ADP 民間雇用統計と ISM 非製造業景況指数が発表されるため注目される(下図を参照)。ADP 民間雇用は、月々の多少の乖離はあるものの、非農業部門雇用者数および民間雇用者数と連動性が高く、前月程度の 23 万人前後の増加を確保する場合は金曜の非農業部門雇用者数の伸びも現在の市場予想(+23 万人)を確保できドルに中立、目途として 25 万人を超えればドル高でドル/円は 120 円乗せの展開もあり得る一方、20 万人を割り込むとドル小反落となりそう。

他方、ISM 非製造業景況指数の雇用指数は、非農業部門雇用者数の増加の殆どがサービス業(非製造業)であることから重要性は高いが、同指数は過去 6 か月連続で改善が続いているにも拘らず非農業部門雇用者数の伸びはそれと関係なく上下しており、連動性が低くなっているため注目度は相対的に低い。

豪州では 3Q GDP が発表され、前期比+0.7%へ加速が予想されている。市場予想(ロイター纏め)をみると、4Q に+0.8%、来年 1Q に+0.9%と加速が続く、その後も+0.9%のペースでの経済成長が続く予想で、これだけみれば RBA の利上げが早まりそうだが、豪州では鉄鉱石を始めとするコモディティ価格の下落が今後企業利益や賃金の重石になるリスクがあるほか、失業率が 6%台で高止まっていることから、利上げは来年半ば以降、恐らく Fed よりも利上げ開始は遅れるとの見方が支配的となっている。このため、足許、GDP 統計は市場予想からの乖離は豪ドルの短期的な変動には繋がるが、RBA 利上げ開始や豪ドル動向との関連ではあまり重要度は高くなさそう。豪ドルはコモディティ価格の下落や米利上げ期待を受けて、対米ドルを中心に下落基調が続くそう。

カナダではカナダ中銀が金融政策決定を発表するが、政策金利は 1.0%で据置き予想の一方、原油価格下落による交易条件(輸出価格/輸入価格)の悪化などから景気見通しが慎重化するリスクがあり、そうした認識が声明文に含められると、既に 2015 年 10-12 月期に後ずれしてきている利上げ開始時期予想が更に後ずれするリスクがあり、青天の霹靂という訳ではないがカナダドルが下落する可能性がある。



ディスクレーマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641